

# QR Newsletter

## 第四紀通信

Vol.2 No.5, 1995



見学会案内参照

**Vol.2 No.5**

**September 15, 1995**

学会からのお知らせ (論文賞, 見学会, 講習会)	2
研究トピックス (シーケンス層序学, LOICZ-Japan)	6
研究集会のお知らせ (火山工学フォーラムほか)	3
学会報告	8

## ■ 1995年日本第四紀学会論文賞

日本第四紀学会論文賞受賞候補者選考委員会（吉川虎雄委員長，大森昌衛・垣見俊弘・松井健・渡辺直経各委員）から，1995年日本第四紀学会論文賞として，次の3編の論文の著者を選定した旨報告がありました。受賞理由とともにここに掲載し，益々の研究の発展を期待いたします。

鈴木正章・吉川昌伸・遠藤邦彦・高野 司

『茨城県桜川低地における過去32,000年間の

環境変遷』

「第四紀研究」，第32巻第4号，  
195-208，1993。



本論文は，関東平野北東部を流れる桜川沿岸の低地において，最終氷期最寒冷期前後から現在に至る期間の環境変遷を，高い精度で実証的に復元したものである。この時代における環境の変遷については，すでに多くの研究があるものの，平野においては，構成する地層の観察ができず，ボーリングなどによって得られた断片的・間接的なデータに頼らざるを得ないので，精度の高い資料が不足している。著者らはたまたま，桜川低地を横断して掘削された幹線排水路をはじめとする，多数の水路に沿う連続露頭を直接観察する機会に恵まれたため，平野においてはかつてない高い分解能で，この時代の環境を復元することに成功した。著者らはまず，桜川中流域に発達する段丘面をTc1面，Tc2面，Tc3面（下大島面），沖積低地高位面，沖積低地低位面に区分し，各段丘面構成層の層相と年代および相互の関係を明らかにした。とくに下大島面を構成する下大島層については，テフラと14C年代によって時間軸を設け，森林植生の変化から気温や乾湿の変化を推定して，2.1-1.7万年前の期間に最寒冷期があったことを明らかにした。また，その下位にある下大島層基底礫層（SG）は2.2万年よりも古く，この礫層は桜川の下流域では低地を深く削り込んだ谷底に堆積する「沖積層」の基底礫層（BG）に移行することを確認した。

この事実はBGが最終氷期最寒冷期に対応するという従来の一般的見解とは合致せず，BGはそれ以前に形成された谷底に堆積したと考えねばならないことを示唆する。このような考えは本論文が初めて提示したものは必ずしもいえないが，従来は断片的なボーリング試料に基づいて推定されていたに過ぎない。本論文は，桜川中流域のSGが下流部の「沖積層」のBGに連続することを確認し，その堆積期が最寒冷期以前で

あることを，花粉分析の結果とその年代値を用いて実証した。この成果は「沖積層」とは何かという古い問題に新しい展開を迫るものであり，その意義は大きい。本論文ではまた，立川期以降について，3.2万年前から1万年前までの7期間と完新世との8期間に分け，各期間における桜川低地の侵食・堆積，河川の流路変動，地形面の形成，気候・乾湿・植生などの変遷について記述している。従来の研究に比較すれば，とくに2.4-1万年前の「沖積層」下部層の時代における環境の変遷を高い分解能で解明しているといえよう。

本論文の目的・手法・内容は「第四紀研究」誌上では普通に見られるものである。しかし，平野の地下地質を直接観察することができる機会を徹底的に利用して得られた成果は，最終氷期から後氷期にかけての環境変遷や「沖積層」の研究に大きく貢献するものであり，第四紀研究の発展に寄与するところが大きい。

寺田和雄・太田貞明・鈴木三男・能城修一・辻誠一郎

『十和田火山東麓における八戸テフラ直下の埋没林

への年輪年代学の適用』

「第四紀研究」，第33巻第3号，  
153-164，1994。



十和田火山東麓には，12,650yBPに降下した十和田八戸テフラの直下に，埋没林が広く分布する。埋没林の樹木には，立木や倒木があり，樹皮のあるものやないものがあって，少なくとも樹皮のある立木は十和田八戸テフラの降下時にその場で同時に枯死したと推定される。本研究はこの推定を年輪年代学の手法を用いて実証したもので，更新世の化石樹木に年輪年代学を応用したわが国では初めての研究である。

元来，年輪年代学は米国南西部で発達した研究分野である。この地域では樹木の生長が単純に年降水量によって支配されることから，各樹木の年輪幅の逐年変化を相互に比べれば，同じ期間に成育した部分を容易に識別することができる。そこで，現生の樹木から年代の異なる考古遺跡に残存する木材を用いて，年輪幅の逐年変化を現在から過去に向かってつなぎ合わせ，

それを基準にして年代未知の木材の年代を判定するのが年輪年代学である。この方法は米国の他の地域やヨーロッパ・日本でも試みられたが、樹木個体間の成長パターンの類似が米国南西部のように簡単明瞭に識別できないことから、その応用は不可能であると長らく信じられていた。ところが、最近になってヨーロッパや日本でも考古学や美術史の研究にこの方法の応用の道が開けてきたのは、年輪幅の逐年変化を比較するのに、眼で見て判断する代わりに、相関係数を用いる方法が採用されたからであり、コンピュータの活用にも負うところが大きい。

本研究においても、樹木個体間の年輪幅逐年変化の対比には、移動平均法による各年輪幅の標準化を行い、これに移動相関法を適用して、有意の相関があるか否かを年輪幅逐年変化の類似の判定基準にしている。本研究で使用した試料は、10個所から採集したトウヒ属・モミ属・カラマツ属の22個体からなる。そのうちで、トウヒ属とモミ属については属内・属間の個体相互に高い相関が認められ、とくに立木の試料は火山灰の降下によって同時に枯死したことを裏付けるものであった。カラマツ属については、すべてが倒木の試料であり、属内・属間ともに相関が低かったが、本研究ではその原因が明らかにされていない。その他、火山噴火によって枯死した立木の最終年輪の組織から、噴火が起こったのは冬季であると判定している。

本研究は火山灰直下の埋没林に年輪年代学を応用した特殊な例であるが、わが国の化石樹木にも年輪年代学を適用しうることを実証した点を高く評価したい。これを契機にして、今後年輪年代学が、化石樹木に限らず、さらに新しい時代の木材遺物にも適用され、第四紀に生じた諸事象の年代判定に活用されて、第四紀研究の発展に寄与することを期待する。

## 森 勇一

『昆虫化石による先史～歴史時代における古環境の変遷の復元』

「第四紀研究」, 第33巻第5号,  
331-349, 1994.



本論文は、異なる年代の遺跡が複合している宮城県富沢遺跡、愛知県松戸河戸遺跡群・朝日遺跡、静岡県池ヶ谷遺跡において、遺跡を包含する地層の層序を明らかにし、細粒堆積物から産出する昆虫ならびに珪藻化石を解析して、旧石

器時代から歴史時代にかけての環境の変遷を15の年代に分けて復元した研究である。

昆虫化石の収集にあたっては、各遺跡において採取した地質柱状試料から、著者の所属する昆虫研究グループの考察したブロック割りに水洗浮遊選別法を併用して、可能な限り多数の化石を抽出した。とくに昆虫化石の節片や破片の個体における部位を顕微鏡下で鑑定して、同一個体の重複計数を回避するように努めている。

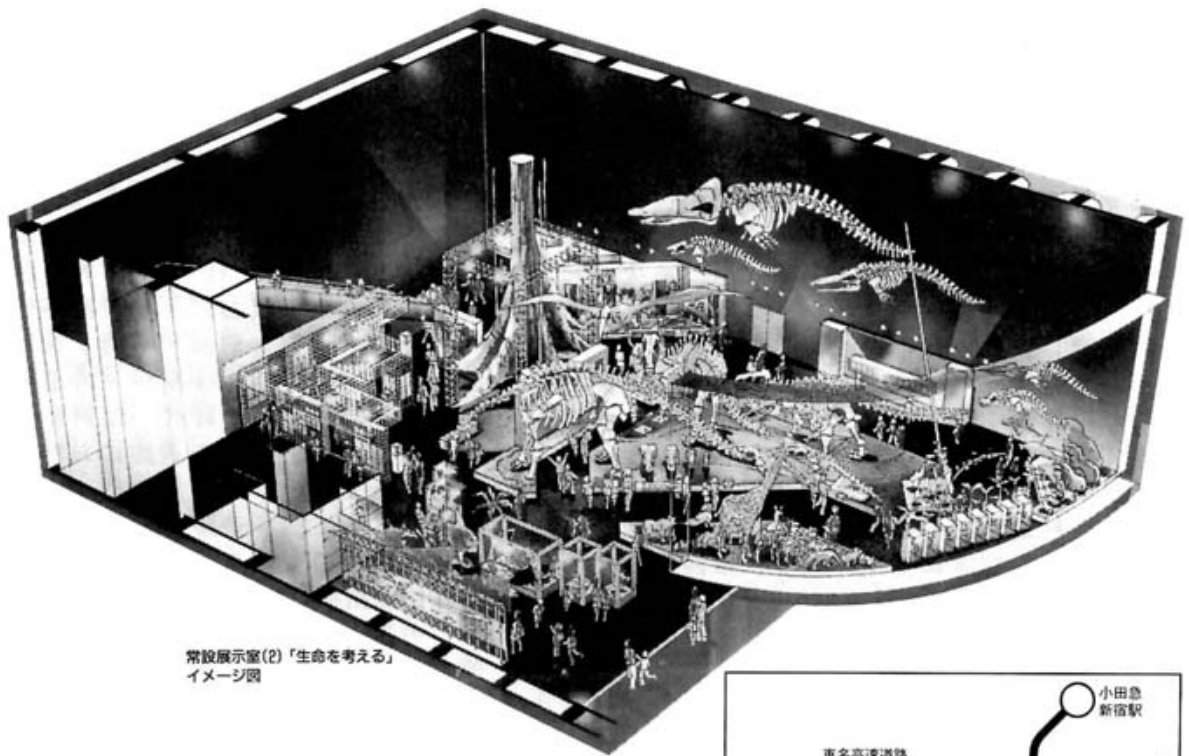
このように入念な試料処理によって、上記4地点から総計13,000点に及ぶ昆虫化石を採取した。本論文で扱っている昆虫は、保存条件に左右されて、大部分が鞘翅目の甲虫類に属する。著者は各遺跡から採取された昆虫化石を生息環境や食性によって分類し、層準別に各昆虫種の出現率を示した。さらに、遺跡中から確認された昆虫化石について、6環境指標種を表示していることが注目される。珪藻化石については、著者ら(1992)の方法によって採取し、それらの生態的特性によって堆積環境を復元した。とくに富沢遺跡の旧石器時代については、珪藻分析の成果に基づいて作成した古地理図上に昆虫の分布を記入して、昆虫化石の現地性を推定している。また、弥生時代以降の遺跡については、珪藻化石によって水田層と非水田層を識別し、それぞれにおける昆虫相の特性と変遷を解析している。年代については、各遺跡で測定された放射年代を参照して、旧石器時代・縄文時代(草創期・早期・前期・中期・後期・晩期)・弥生時代(前中期・後期)・古墳時代・奈良時代・平安時代・鎌倉時代・江戸時代(前期・後期)の15に区別し、各遺跡における環境の変遷を対比している。とくに上に述べた環境指標性昆虫によって、各遺跡を取り巻く植生・土地条件や昆虫相の変化を示すとともに、稲作害虫の出現期を指摘している点が注目される。

この論文の背景には、故日浦勇氏による先駆的な研究や野尻湖発掘調査団昆虫研究グループによる永年の研究がある。しかし、著者自身も考古学の立場からこれらの研究に参加し、自らも昆虫化石による古環境の解析に研究成果を蓄積してきた。この論文は「東アジアと日本の遺跡をめぐる古環境」特集号に掲載されたもので、この種の研究はヨーロッパでは行われてきたが、わが国では最初の試みである。昆虫化石の異地性や個体識別についてさらに検討を要する点もあるが、この分野における今後の研究の礎石となるすぐれた業績である。

## ■ 博物館見学会の御案内

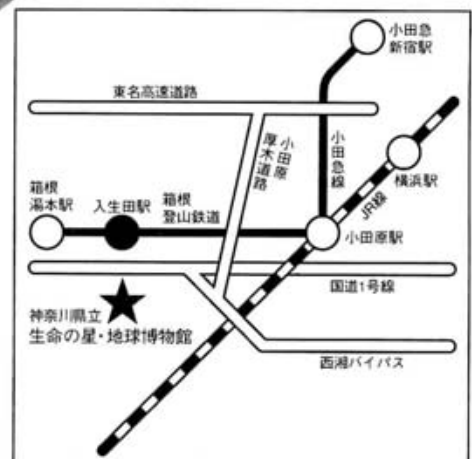
日本第四紀学会では、神奈川県立「生命の星・地球博物館」のご協力を得まして同博物館の見学会を下記の要領で実施いたします。同博物館は神奈川県立博物館の自然部門が独立し、1995年3月に小田原市入生田に新規開館したものです。生命の星・地球を基本テーマに、「地球」「生命」「神奈川」「共生」の視点からこれを明らかにし、神奈川の自然、地球環境の重要性をともに考える新しいタイプの博物館であり、第四紀情報発信基地でもあります。この機会に 会員の皆様が多数参加されるようお願いいたします。

- 集合日時 1995年10月22日(日) 午後1時  
集合場所 神奈川県立生命の星・地球博物館 エントランスホール  
参加費 無 料  
申し込み 10月12日(木)までに、参加者氏名、所属、連絡先を下記にご連絡下さい  
東京 都立大学理学部地理学教室 山崎晴雄 宛  
住所：〒192-03 八王子市南大沢1-1  
電話：0426-77-2592(直通) FAX：0426-77-2589(地理学教室)  
e-mail：yamazaki@mother.geog.metro-u.ac.jp  
実施要領 当日現地に集合してください。



常設展示室(2)「生命を考える」イメージ図

- 休館日：毎週月曜日 12月28日～1月4日  
祝日の翌日(土・日曜日にあたるときは開館) 3月22日は開館  
館内整備点検の日(偶数月の第4木曜日、ただし4月・12月は第3木曜日)  
交通：〈電車〉「小田原」駅から箱根登山鉄道「箱根湯本」または「強羅」行きで、「入生田(いりうだ)」駅下車。徒歩3分。  
※小田急線急行「箱根湯本」行きも「入生田」駅に停車。  
〈バス〉「小田原」駅から箱根登山鉄道バスまたは伊豆箱根鉄道バスの箱根方面行きで、「入生田」バス停下車。徒歩2分。  
※交通混雑が予想されます。できるだけ電車・バスをご利用下さい。  
所在地：〒250 神奈川県小田原市入生田499番地 TEL.0465-21-1515



## ■ 第3回 第四紀学会 講習会のお知らせ

第3回日本第四紀学会講習会を下記の日程で実施します。  
テフロクロロジーの研究方法に関心をお持ちの学生・院生・一般社会人の方々の  
積極的な参加をお待ちしております。

1. テーマ：テフロクロロジー
2. 開催地：神奈川県大磯丘陵・相模原・多摩丘陵周辺, および東京都立大学
3. 日程：1995年11月11日（土）～11月12日（日）
4. 内容：1日目に大磯丘陵・相模原・多摩丘陵周辺で野外巡検をおこなう。各地のテフラ露頭において  
テフラの観察・記載・試料採取について実習する。  
2日目には室内分析の方法について解説し、実際に初日に採取したテフラを分析する。
5. 募集人数：25人程度（応募者多数の場合は抽選をおこないます）
6. 参加費：10,000円の予定（バス・昼食代など）  
なお、遠方から参加される方は各自 宿泊地を確保下さい
7. 講師：鈴木毅彦（都立大）
8. 参加申し込み：氏名・年齢・性別・所属・連絡先を明記して、  
下記まで、はがき、FAX、E-Mailのいずれかでお願いします  
申込先：東京都立大学理学部地理学教室 鈴木毅彦  
〒192-03 東京都八王子市南大沢1-1  
FAX 0426-77-2589, TEL 0426-77-2594  
e-mail: suzuki@geog.metro-u.ac.jp
9. 申し込み締切り：10月15日

### ■ 「第四紀通信」編集事務局から

日本第四紀学会の会報「第四紀通信QRNewsletter」Vol.2, No.5 をお届けいたします。  
次号 No.6 には、前会長の相馬寛吉先生の追悼記事を掲載する予定です。先生の思い出やお写真  
をお持ちの方はお送りいただきますようお願いいたします。

また、研究集会や研究トピックスの記事もお送り下さい。  
原稿締め切りは10月末日です。

編集幹事： 小池裕子  
〒810 福岡市中央区六本松4-2-1 九州大学大学院比較社会文化研究科  
TEL & FAX 092-716-6892  
e-mail: koikegsc@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

■ 論文集「シーケンス層序学—新しい地層観を目指して—」について

斎藤文紀（地質調査所）

地層や不整合の形成を相対的海水準変動との関係でとらえて、地層を総合的に解析するシーケンス層序学に関する論文集が、日本地質学会から刊行されました。本書はシーケンス層序学に関する基礎的なことから具体的研究例を含む16編の論文から構成されています。購入は日本地質学会（101東京都千代田区鍛冶町1-10-4丸石ビル内、Fax. 03-5256-5676）に直接お申し込み下さい。

斎藤文紀・保柳康一・伊藤慎（編集）  
「シーケンス層序学—新しい地層観を目指して—」  
地質学論集 第45号 1995年8月刊、  
A4版2段組、249ページ、2800円

<目 次>

はじめに	斎藤文紀・保柳康一・伊藤慎
シーケンス層序学入門	酒井哲弥・斎藤文紀・増田富士雄
シーケンス層序学的地層観	伊藤慎
堆積盆解析におけるシーケンス層序学：一次元解析から三次元解析へ	保柳康一
石油・天然ガスの探鉱におけるシーケンス層序学の意義	荒戸裕之・高野修
粗粒三角州による開析谷埋積シーケンス：対馬，仁田湾の最上部更新・完新統	斎藤文紀・横田節哉・池田国昭・羽坂俊一・井内美郎・赤松守雄・松本英二・山崎理子・小栗一将・大嶋和雄
波浪・河川卓越環境の開析谷における埋積堆積物の高分解能シーケンス層序：中央日本関東平野の最上部更新・完新統の例（英文）	斎藤文紀
更新統の海浜堆積物に対するMINI-SEQUENCESTRATIGRAPHY	増田富士雄・岡崎浩子・横川美和・村越直美・酒井哲弥
日本海第四紀堆積物のシーケンス層序学的解析への生層序学の貢献	
—時間面としての暖流系種の消長—	北村晃寿
新潟堆積盆地における3タイプの第4オーダー堆積シーケンスモデル	荒戸裕之・保柳康一
魚沼層群にみられる海成層の堆積サイクルと相対的海水準変動	卜部厚志・立石雅昭・風岡修
静岡県，鮮新・更新統掛川層群のシーケンス層序（英文）	酒井哲弥・増田富士雄
北部フォッサマグナ堆積盆浅海相前進ステージにおけるデルタ～陸棚システムと堆積シーケンス	
—東頸城地域鮮新統東川累層・奈良立累層の例—	高野 修
相対的海水準変動に支配されたファンデルタシステムの堆積シーケンス	
—北部フォッサマグナ長野県地域の中新統・鮮新統—	渡辺大輔・西村瑞恵・保柳康一
沖縄県与那国島の八重山層群、久部良岳層のシーケンス層序	小竹信宏・奈良正和
常磐沖堆積盆における下部中新統のシーケンス層序解析	岩田尊夫
上部白亜系久慈層群の堆積相とシーケンス	照井一明・長浜春夫

## ■ Newsletter 「LOICZ-Japan」の発刊について

茅根 創（東京大学理学系研究科地理学教室）

ICBP（地球圏-生物圏国際協同研究計画）のもっとも新しいコアプロジェクトとして、LOICZ（Land-Ocean Interactions in the Coastal Zone：海岸・沿岸域における陸域海域の相互作用）が1993年から開始されました。ICBPは、地球システムを構成する物理・化学・生物の相互過程とその変化および変化に関わる人間活動の影響を理解することを目的としています。この中でLOICZは、地球環境変動が海岸・沿岸域に及ぼす影響を明らかにして、その変化が地球の物質循環や人間の利用に対して与える影響を評価し、海岸・沿岸域の持続可能な管理のための基礎的知見を提供することを目的としています。

本ニュースレターは、大学、国公立研究所、官庁、企業などで海岸・沿岸域に関連した研究・業務を行なっている研究者・実務担当者300名以上の方に配布しております。今後この分野の研究の重要性は高まっていくものと思われませんが、適宜ニュースレターを発行し、研究活動の現状や本分野をめぐる情勢について、情報を交換し発信して行きたいと考えております。ニュースレターの発送を希望されます方は、下記の事務局までファックスまたは郵送にてお知らせ下さい。

LOICZ-Japan 事務局：

113東京都文京区本郷7-3-1 東京大学理学系研究科地理学教室内 茅根 創

Fax：03-5684-0518 Tel：03-3812-2111 (ex4573)

e-mail：kayane@geogr.s.u-tokyo.ac.jp

### ■ 熊本大学理学部地球科学科教官公募について

1. 職名・人員：助教授 1名
2. 所属講座：生物圏進化学講座
3. 専門分野：層序学、地史学、古生物学関連分野で、野外地質調査が指導できる人を希望します。
4. 応募資格：学位（博士）を有すること。
5. 着任時期：決定後なるべく早い時期を希望します。（遅くとも平成8年4月）
6. 提出書類
  - (1) 履歴書（頭に「生物圏進化学助教授応募」と記して下さい）
  - (2) 業績リスト（論文については査読の有無を区別して下さい）
  - (3) これまでの研究経過（1,000字以内）及び今後の教育・研究計画（1,000字以内）
  - (4) 応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先
  - (5) 主要論文の別刷またはコピー（5編以内）
7. 公募締め切り：平成7年10月31日（月）必着
8. 書類提出先：
 

〒860 熊本市黒髪2丁目39-1 熊本大学理学部地球科学科学科長 小畑正明 宛  
TEL 096-342-3411（教室事務）、096-342-3412（小畑研究室）  
FAX 096-342-3411
9. 応募上の注意：封筒に「生物圏進化学教官応募」と朱書き、簡易書留で郵送して下さい。

（参考）

熊本大学理学部地球科学科は5講座からなり、現在下記のような人員構成になっています。

- 講座：地球物質学 小畑正明（教授）清水 洋（助教授）  
 生物圏進化学 岩崎泰穎（教授）[今回公募]（助教授）  
 地球化学 尾崎正陽（助教授）横瀬久芳（助手）  
 地球変動学 松田時彦（教授）[現在公募申]（助教授）豊原富士夫（講師）  
 地球環境システム学 尾田太良（教授）松田博貴（助教授）徐 学東（助手）

博士課程は自然科学研究科の自然環境科学大講座の中にあり、理学部教官は一部併任のかたちになっています。

## ■ 火山工学フォーラム『火山とつきあう』開催のお知らせ

日本第四紀学会が協賛学会となっている上記フォーラムの案内がきておりますので、お知らせいたします。

主催：土木学会土構造物および基礎委員会火山工学研究小委員会

協賛：地盤工学会，火山学会，砂防学会，自然災害学会，日本第四紀学会，日本火山工学研究会

期日：1995年9月26日（火）10：00～17：00

会場：コクヨホール（東京都港区南1-8-35，JR品川駅港南口前，TE 103-3474-6092）

参加費：7,000円（税・テキスト代を含む）

テキスト：「火山とつきあう」（9月上旬販売予定）

申込方法：参加を希望される方は，A4判の任意用紙にフォーラム名と「参加希望」を明記の上，①参加者氏名，②勤務先・所属（または通学先・学部学科，等），③連絡先（郵便番号・住所・電話番号・FAX番号）を列記し，参加費を添えて現金書留にて下記あてお申込み下さい。折り返し参加券をお送り致します。なお，銀行振込（第一勧業銀行四谷支店（普）1004632，(株)土木学会）および郵便振替（東京6-16828，社団法人土木学会）を利用される場合は，上記申込み書に支払い方法を明記して送金して戴いても結構です。

注：参加費の返却は致しません。但し，テキストを後日郵送致します。

定員：200名（先着順）

申込締切期日：1995年9月5日（火）

申込み先：〒160 東京都新宿区四谷一丁目無番地 (株)土木学会研究事業課 火山工学フォーラム係

TEL 03-3355-3559 FAX 03-5379-0125

## II. プログラム

	総合司会	中村裕昭／中央開発(株)
10：00～10：10	開会挨拶	国生剛治／土構造物および基礎委員会委員長
10：10～10：35	話題提供 (1) / 火山災害史に見る火山とのつきあい	北村良介／鹿児島大学工学部
10：35～11：10	話題提供 (2) / 防災マップの見方・作り方	今村遼平／アジア航測(株)
11：10～11：35	話題提供 (3) / 噴火時に活用できる無人化施工	岡村喬／(株)熊谷組
11：35～12：00	話題提供 (4) / 自然景観にマッチした設計	渥美博行／鹿島
13：00～14：00	特別講演 / 火山災害と法律	福崎博孝／福崎博孝法律事務所
14：10～15：40	パネルディスカッション「火山とつきあう」	
	座長：陶野郁推／国立環境研究所	
	パネリスト：高橋和推／長崎大学工学部，藤井敏嗣／東京大学地震研究所	
	森俊勇／建設省河川局，矢野栄二／帝京大学医学部	
	及び上記話題提供者・特別講演講師の6名	
15：50～16：50	特別講演 / 火山ガスと災害	小坂文子／玉川大学農学部
16：50～17：00	閉会挨拶	陶野郁雄／火山工学研究小委員会委員長

### ■ 日本地質学会リーフレット「大地の動きを知ろうー地震・活断層・地震災害ー」

日本地質学会では，兵庫県南部地震ー阪神淡路大震災発生以来，活断層，ならびに地盤の液状化や斜面崩壊などの地震災害とはどのようなものであるかを広く一般市民に理解していただくと考え，上記リーフレットを作成いたしました。貴学会や一般の方々には一部200円（送料130円）で頒布しておりますので，下記にお問い合わせ下さい。

日本地質学会事務局 〒101 東京都千代田区鍛冶町1-10-4（丸石ビル）  
TEL 03-3252-7242 FAX 03-5256-5676



## ■ 地球環境研究総合推進費研究成果発表会開催のお知らせ

環境庁では、平成2年度より地球環境研究総合推進費を計上し、関係省庁の国立試験研究機関、大学など広範な分野の研究者を結集して、学際的、省際的、国際的な視点から、地球環境保全のための研究を総合的に推進しています。この成果は、毎年、つくばで開かれる地球環境研究者交流会議の場で発表してきましたが、研究開始から5年目に当たる今年は、広く地球環境問題に興味を持つ方々に参加していただくために、平成7年度地球環境研究総合推進費研究成果発表会（第9回地球環境研究者交流会議）の会場を東京に移して開催することとなりました。

- ・日時 平成7年10月2日（月）～10月6日（金）9：00～17：00（初日のみ10：30開始）
- ・場所 中央大学駿河台記念館 東京都千代田区神田駿河台3II-5
- ・発表内容
  - 10月2日（月）オゾン層の破壊
  - 3日（火）地球の温暖化（I．現象説明）
  - 4日（水）総合化研究
    - その他の地球環境問題
    - 人間・社会的側面から見た地球環境問題
    - 地球の温暖化（II．影響・対策）
  - 5日（木）酸性雨
    - 海洋汚染
  - 6日（金）熱帯林の減少
    - 生物多様性の減少
    - 砂漠化
- ・参加費 研究発表・パネルディスカッション：無料  
懇親会：2,000円（当日懇親会場にて集めます）
- ・お申し込み・お問い合わせ 下記事務局宛に申込用紙（プログラム）をご請求ください。  
締め切り：平成7年9月15日  
（社）環境情報科学センター担当：間正（ましよう）〒102千代田区九段南4-724  
TEL. 0332653916 FAX. 0332345407

## ■ 学術情報センターのWWWサービス等について

学術情報センターは文部省の大学共同利用機関として設置され、学術情報の流通の促進を図るべく、大学等の教員及び学会の正会員等の方々に対して学術研究支援等を行ってまいりましたが、この度、学協会で収集しておられる学術情報のさらなる流通を促進するため、インターネットを通じてWWW（World Wide Web）による情報発信の手段を提供することになりました。このことにより、日本国内のみならず全世界に向けての情報発信が可能となります。

本センターでは、情報検索及び電子メールの各サービスを実施し、貴学会の正会員等にご利用いただいておりますが、このたび平成7年度版のサービス案内を作成いたしましたのであわせてご案内いたします。

また、本センターでは、学会等を対象とした標記利用説明会を開催しています。この説明会は本サービスの利用の普及や本センターとの連絡調整などをしていただく各学会の事務局職員等を対象に募集いたします。主な内容は、①学術情報センターの概要、②情報検索サービスの概要及び利用方法、③電子メールサービスの概要及び利用方法、④学術情報センターとの接続方法、などです。

問い合わせ・申し込み先は、下記まで、お願いいたします。

学術情報センター管理部共同利用課共同利用

〒112文京区大塚3-29-1

TEL 03-3942-6934, FAX 03-3942-6797

## ■ 総会議事録 (1995年度)

日時：1995年8月26日(土) 11:00～12:10

場所：新潟大学教養校舎G410教室

議長：吉越正勝

出席：出席正会員83名，委任状146通。

### 1. 報告事項

#### 1. 1994年度事業報告

##### 1-1. 庶務

(1) 会員動向(1995年7月31日現在)：  
正会員1812名(一般会員1648名，学生会員103名，海外会員25名)，賛助会員14社(16口)，団体会員98団体(101口)。  
逝去会員は，井上昌幸・相馬寛吉・野村亮太郎の3氏。

(2) 1994年度第2回評議員会を1995年1月28日に東京大学理学部地理学教室で開催した。出席者19名，委任状16通，議長：小泉武栄。

(3) 以下のシンポジウム・講演会等の協賛及び後援を行った：

第9回「大学と科学」公開シンポジウム

海洋調査技術学会第6回研究発表会

(1994. 11. 10-11)

第2回アジア学術会議—科学者フォーラム

(1995. 2. 6-9)

海岸・沿岸域研究を考える：IGBP/LOICZ研究計画シンポジウム(1995年1. 20-21)

昭和南山生成50周年記念国際ワークショップ

(1995. 10. 12-15)

(4) 自然史科学連合に正式参加することになった(1994年度第2回評議員会にて承認)。

(5) 1995年3月の地球惑星科学関連学会合同大会にシンポジウム共催学会として参加した

(1994年度第2回評議員会にて承認)。シンポジウム・タイトルは「湖沼堆積物—地球環境変動の”高精度検出計”—」，コンピナーは遠藤邦彦・石渡良志・福沢仁之・井内美郎，共催学会は日本第四紀学会および日本地質学会であり，従来の大会にはない他分野からも多数の参加者があつた。また，1994年度第2回評議員会において地球惑星科学関連学会に正式参加する方針が承認され，これについて幹事会で検討した結果，1995年度評議員会・総会でセッション参加学会として正式参加を提案することにした(審議事項2参照)。

(6) 第16期学術会議第四紀研究連絡委員会委員が下記のように決定した：米倉伸之(委員長)，池田安隆，上杉 陽，太田陽子，大場忠道，熊

井久雄，小池裕子，酒井潤一，新藤静夫，相馬寛吉，立石雅昭，野上道夫，松島義章

(7) 会費長期滞納者(5年以上)に対して督促を行い，なお未納の会員を除籍処分とした。

### 1-2. 編集

(1) 「第四紀研究」33巻4号，5号，34巻1号，2号，3号を編集・刊行した。このうち，33巻5号および34巻3号はそれぞれ特集号「東アジアと日本の遺跡をめぐる古環境，(編集委員長；岡田篤正，論文10篇)」および「高精度年代測定と第四紀研究，(編集委員長；町田 洋，論文17編)」である。特集号を除き，刊行された論文等の数は，原著論文10篇，短報4篇，口絵2篇である。1994年度の刊行総頁数は395頁(但し，33巻の総頁数は390頁)である。また，34巻4号の掲載論文はすでに受理を決定しているものがある(原著論文2篇，短報1篇)，ほかに原著論文13篇，短報4篇，資料1篇を審査中である。最近，投稿論文が少ないので，会員諸氏からの論文投稿をお願いする。

(2) 34巻2号から印刷所を双文社から日本印刷に替えた。

(3) いつも特集号の刊行が遅れるが，34巻に関しては特集号編集委員会の努力で3号にすることができた。大会後の連絡を密にすることによって，シンボ後1年で出版できた。

(5) 来期編集委員会への引き継ぎ事項として，以下の点を検討した：a) 科研費(刊行助成金)のゼロ査定に関連して，会誌のA4判化，Abstractの充実，欧文投稿の奨め方等を検討する必要がある；b) 刊行スケジュールを厳守すること；c) 執筆要領の改訂，この中には脚注の著者所属記載や記号類の統一，キーワード等が含まれる。

### 1-3. 行事

(1) 1994年度大会(総会・シンポジウム・一般研究発表会・巡検・懇親会)を東京都立大学において1994年8月26日～30日に開催した。シンポジウムのテーマは「高精度年代測定と第四紀研究」(話題提供12件；オーガナイザー：町田 洋・大村明雄)。一般研究発表61件，ポスターセッション5件。8月29～30日の巡検は「伊豆半島北端部プレート衝突域の第四紀地史」(案内者：山崎晴雄・町田 洋・水野清秀)。

(2) 公開シンポジウム「日本列島における海岸環境の変遷—第四紀後半から現在まで—」(日本学術会議第四紀研究連絡委員会と共催)を，1994年11月25日に日本学術会議講堂において開催した。

(3) 日本第四紀学会講演会「中・下部更新統模式セクションに関するシンポジウム(房総半島の候補地について)」を、1995年1月28日に東京大学理学部地理学教室において開催した。

(4) 「1995年1月17日兵庫県南部地震調査連絡委員会」(日本第四紀学会と学術会議第四紀研究連絡委員会の共催)を、1995年2月18日に日本大学文理学部大講堂において開催した。

(5) 1995年3月の地球惑星科学関連学会合同大会において、シンポジウム「湖沼堆積物-地球環境変動の"高精度検出計"-」を日本地質学会との共催で開催した。コンピーナーは遠藤邦彦・石渡良志・福沢仁之・井内美郎であり、従来の大会にはない他分野からも多数の参加者があった。

(6) 1995年度大会の準備を行った。1995年8月25日~29日に新潟大学において開催する。大会準備委員長:青木 滋

日程:25日 一般研究発表・ポスターセッション;26日 一般研究発表・ポスターセッション・総会・懇親会;27日 シンポジウム「平野の自然と人類史-越後平野を例として-」(発表8,オーガナイザー:小林巖雄・小野 昭・立石雅昭・柴崎達雄;28~29日 巡検「新潟の古自然環境」(案内者:鈴木郁夫・長谷川美行・高野武男)

(7) 博物館見学会の準備を行った。1995年10月22日に神奈川県立 生命の星・地球博物館において開催する予定。

#### 1-4. 企画

(1) 第四紀露頭集編集委員会を発足し、40周年記念企画「日本の火山灰-第四紀露頭集:その1」の編集を進めている。委員長代行は遠藤邦彦、委員は池田安隆・上杉 陽・奥村晃史・熊井久雄・清水長生・鈴木毅彦・町田 洋・渡辺満久である。委員会は、現在まで6回開催した。「その1」には、広域テフラやテフラを含む地層の重要露頭(消滅露頭を含む)を中心に、代表的な古環境・テクトニクス・考古・土壌関係の露頭をも含めること、A4判約400頁とすること、有料特別号として安価に販売することを決定した。広域テフラ、地域テフラ、及びその他のテーマ毎に担当委員を決め、掲載露頭と執筆者リストを作成中である。また、ニュースレターを通じて、記載保存すべき露頭の公募を行った。

(2) 第1回第四紀学会講習会(テーマ:変動地形の研究手法~阿寺断層)を1994年8月17~19日に岐阜県坂下町で開催した。応募者は53名、

抽選により31名が参加。講師は佃 栄吉、栗田泰夫両会員(地質調査所)にお願いした。

(3) 古生態学研究方法論をテーマとする第2回講習会を企画し、1995年3月18~19日に千葉県木更津市(小櫃川河口)及び千葉市の千葉県立中央博物館で開催した。応募者44名中38名が参加。講師は小池裕子(九大)、鹿島 薫(九大)、米林 伸(千葉県立中央博)、江口誠一(大阪市立大)の4会員にお願いした。

(4) テフラをテーマとする第3回講習会を企画し、鈴木毅彦会員(都立大)に講師をお願いし、講習会の日程及び講習内容の検討を依頼した。

(5) 学会賞の創設について、1994年度第1回評議員会に諮り、同賞創設並びに学会賞規定(案)の承認を得た。これを受けて、1994年総会において学会賞の創設並びに学会賞規定(案)を提案し、原案を一部修正の上、承認された。

#### 1-5. 会報

(1) 昨年度に引き続き編集委員として鹿島薫氏をお願いし、「第四紀通信 QR Newsletter」Vol.1, No.3(1994年7月,16頁), Vol.1, No.4(1994年10月,24頁), Vol.2, No.1(1995年1月,16頁), Vol.2, No.2(1995年3月,16頁), Vol.2, No.3(1995年5月,16頁), Vol.2, No.4(1995年7月,16頁)を刊行した。

(2) 前回評議員会において審議の結果、会報充実のため年6回(原則として16頁)刊行とすることが了承された。

#### 1-6. 渉外・国際

(1) 「第四紀研究」掲載の原著論文の要約を「The East Asian T/Q News Letter」に投稿し掲載している。

(2) INQUA コミッションに対応する以下の研究委員会が活動を継続中である。

- a) テフラ研究委員会(委員長:町田 洋)
- b) INQUA/GLOCOPH対応研究委員会(委員長:門村 浩)
- c) 海岸線研究委員会(委員長:太田陽子)
- d) 応用第四紀研究委員会(委員長:太田陽子)
- e) 上・中・下部更新統境界に関する研究委員会(委員長:熊井久雄)

(3) 「日本の第四紀研究1991-1995ナショナルレポート」(英文・B5判・56頁)を印刷し、INQUA第14回ベルリン大会で配布するために発送した。

#### 2. 1994年度決算報告・会計監査報告

別添資料参照

#### 3. 研究委員会報告

- (1) テフラ研究委員会(委員長:町田 洋)

(2) 上・中・下部更新統境界に関する研究委員会 (委員長: 熊井久雄)

(3) INQUA/GLOCOPH対応研究委員会 (委員長: 門村 浩)

(4) 応用第四紀研究委員会 (委員長: 太田陽子)

(5) 海岸線研究委員会 (委員長: 太田陽子)

\* 上記の研究委員会の活動報告は、「日本の第四紀研究1991-1995ナショナルレポート」に掲載した。

#### 4. 日本学術会議・第四紀研連報告

米倉伸之第四紀研連委員長よりこれまでの活動報告およびINQUA第14回ベルリン大会の報告があった (別途関連記事参照)。

## II. 審議事項

### 1. 1995年度事業計画

#### 1-1. 庶務

- (1) 学会受け入れ図書の整理を進める。
- (2) 1995年度において活動を希望する研究委員会を内定し評議員会に諮る。
- (3) 論文賞受賞候補者選考委員会を組織し、その運営を担当する。

#### 1-2. 編集

- (1) 「第四紀研究」34巻4号, 5号, 35巻1号, 2号, 3号を編集・刊行する。
- (2) 1995年度大会シンポジウム「平野の自然と人類史—越後平野を例として—」を中心とする特集号の編集委員会を設置し、企画・編集にあたる。
- (3) 「第四紀研究」のA4判化, 投稿規定・執筆要領などの改定を検討する。
- (4) 海外の非会員による投稿を認めるか否かを検討する。

#### 1-3. 行事

- (1) 1995年度大会を新潟大学において開催する。
- (2) 1996年1月中～下旬に講演会を企画する。
- (3) 1996年度大会の準備を行う。1996年8月22～24日, 東京大学において開催の予定 (開催側責任者: 米倉伸之会員)。シンポジウムのテーマは検討中。
- (4) 第四紀研連, 研究委員会, 他学会・他研連, 地域博物館などと協力し, ミニシンポジウム・講演会等を企画する。1995年10月22日に「神奈川県立 生命の星・地球博物館」の見学会を行う。

#### 1-4. 企画

- (1) 40周年記念企画「日本の火山灰—第四紀露頭集: その1」を1996年8月大会に向けて, 有料

特別号形式で刊行する。さらに, 「その2」, 「その3」を刊行することにより, 消滅の激しい第四紀露頭の記載保存を継続的に行う方向で努力する。

(2) 第3回第四紀学会講習会 (テーマ: テフラ) を1995年の秋に神奈川県下で開催する。講師は東京都立大学の鈴木毅彦会員にお願いした。

### 1-5. 会報

「第四紀通信」のVol. 2, No. 5 (1995年9月, 16頁), Vol. 2, No. 6 (1995年11月, 16頁), Vol. 3, No. 1 (1996年1月, 16頁), Vol. 3, No. 2 (1996年3月, 16頁), Vol. 3, No. 3 (1996年5月, 16頁), Vol. 3, No. 4 (1996年7月, 16頁) を刊行し掲載内容の充実を計る。

### 2. 地球惑星科学関連学会への正式参加について

地球惑星科学関連学会に, セッション参加学会として正式加入することを提案する。セッション参加学会として加入すると, 毎春開催される地球惑星科学関連学会合同大会において, 本学会の固有セッションを設けることが可能となり, これによって従来にはない新しいタイプの参加者の増加を期待できる。また, 本学会自体もシンポジウムの共催などを通じて様々なタイプの研究発表を同時に開くことが可能になる。こうした交流を通じて, 地球環境をより人類社会を重視した形で, また自然史科学的に深める気運が広まることを期待したい。

### 3. 会則の改正について

[現行]

第9条 本会の役員は, 会長1名, 副会長1名, 評議員若干名, 会計監査2名, 幹事6名とする。役員任期は2年とし, 会長及び副会長は重任を妨げない。評議員は6期以上, 会計監査は2期以上, 幹事は3期以上連続して就任できない。なお, 幹事は合算して4期 (8年) を越えて就任できない。なお, 必要に応じて, 会長推薦により, 正会員の中から2名以内の幹事を増員することができる。

第10条 評議員は正会員の中から互選される。但し, 会長経験者は被選挙権を有しない。会長・副会長・会計監査は正会員の中から評議員会において選出され, 幹事は評議員の互選による。なお, 役員を選出は別に定める役員選挙規定により行う。

[改正案]

第9条 本会の役員は, 会長1名, 副会長1名, 評議員若干名, 会計監査2名, 評議員互選幹事6名, 会長推薦幹事3名以内とする。役員任期は2年

資料(1) 1994年度収支決算報告書

収入の部 (1994年8月1日～1995年7月31日)

科目	予算額	決算額	増減	備考
会費	13,440,400	13,876,800	436,400	
正会員	12,171,400	12,525,800		海外会費 118,800
団体会員	969,000	1,031,000		過年度分 886,000
賛助会員	300,000	320,000		
誌補助金収入	1,500,000	1,563,563	63,563	
補助金収入	660,000	660,000	0	文部省科研費助成金
雑収入	800,000	1,512,216	712,216	
利子収入	250,000	192,896	△ 57,104	
役員選挙積立金取崩	400,000	400,000	0	
名簿積立金取崩	1,000,000	1,000,000	0	
特別事業積立金取崩	300,000	300,000	0	
INQUA積立金取崩	100,000	100,000	0	
収入合計	18,450,400	19,605,475	1,155,075	
前期繰越金	2,745,088	2,745,088	0	
合計	21,195,488	22,350,563	1,155,075	

支出の部

科目	予算額	決算額	増減	備考
会誌発行費	7,400,000	7,177,709	222,291	第四紀研究5冊 395p 33巻3号～34巻2号
印刷費	5,700,000	5,345,906		
編集費	1,500,000	1,713,466		
別刷印刷費	200,000	118,337		
会誌発送費	700,000	686,805	13,195	
会報発送費	500,000	660,436	△ 160,436	第四紀通信5通 88p 1巻3号～2巻3号
大会運営準備費	500,000	980,380	△ 480,380	1995用
大会運営準備金	400,000	400,000	0	1995用
巡検準備金	100,000	100,000	0	
特別講演会費	250,000	315,264	△ 65,264	
予稿集印刷費	450,000	412,000	38,000	
学会賞費	0	51,237	△ 51,237	
講習会費	100,000	107,940	△ 7,940	
通会信議費	500,000	423,242	76,758	
会費・交通費	50,000	15,300	34,700	
旅費・印刷費	300,000	194,080	105,920	
印刷費	150,000	98,127	51,873	
業務委託費	3,700,000	3,811,139	△ 111,139	資料(4)参照
40周年記念特別刊行物企画編集費	200,000	82,440	117,560	
INQUA対策費	100,000	101,140	△ 1,140	
役員選挙費	400,000	535,884	△ 135,884	
名簿作成費	1,100,000	1,100,000	0	
名簿発送費	600,000	0	600,000	
特別事業積立金	500,000	500,000	0	
INQUA対策積立金	200,000	200,000	0	
役員選挙費積立金	200,000	200,000	0	
予備費積立金	0	0	0	
名簿作成積立金	0	0	0	
研究委員会助成金	200,000	200,000	0	
雑費	100,000	192,412	△ 92,412	
予備費	100,000	0	100,000	
支出合計	18,800,000	18,545,535	254,465	
次期繰越金	2,395,488	3,805,028	△ 1,409,540	
合計	21,195,488	22,350,563	△ 1,155,075	

とし、会長及び副会長は重任を妨げない。評議員は6期以上、会計監査は2期以上、幹事は3期以上連続して就任できない。なお、評議員互選幹事の任期は合算して4期（8年）を越えることはできない。

第10条 評議員は正会員の中から互選される。但し、会長経験者は被選挙権を有しない。会長・副会長・会計監査は正会員の中から評議員会において選出され、幹事は評議員の互選と会長の推薦による。会長推薦幹事については、評議員会の承認を必要とする。なお、役員を選出は別に定める役員選挙規定により行う。

#### 4. 1995年度予算案

別添資料参照

以上の、1995年度事業計画・予算案、地球惑星科学関連学会への正式参加、会則の改正が承認された。

#### III. 日本第四紀学会論文賞授与式

吉川虎雄委員長（論文賞受賞候補者選考委員会）から、選考経過と結果の報告があった（受賞者・授賞理由等については、別途報告）。その後、鎮西清高会長から受賞者に表彰状および副賞が授与された。

#### IV. 日本第四紀学会1995～1996年度役員名簿

（1995年8月1日～1997年7月31日）

会 長：鎮西清高

副 会 長：米倉伸之

会計監査：菊地隆男、松島義章

評 議 員：

共通分野；遠藤邦彦、小野有五、菊地隆男、熊井久雄、松田時彦

地質学分野；赤羽貞幸、新井房夫、酒井潤一、末永和幸、杉山雄一、立石雅昭、楡井久、増田富士雄、松島義章、吉川周作

地理学分野；池田安隆、海津正倫、太田陽子、岡田篤正、小泉武栄、斉藤享治、山崎晴雄、米倉伸之

古生物学分野；小泉 格、辻 誠一郎、那須孝悌、真野勝友

動物学分野；大野正男、小澤幸重

植物学分野；大場達之、鈴木三男、松下まり子

土壌学分野；加藤芳朗、坂上寛一

人類学分野；赤沢 威、小池裕子

考古学分野；麻生 優、小野 昭、織笠 昭、春成秀爾

地球物理学分野；石橋克彦、広岡公夫

地球化学分野；大場忠道、中村俊夫

工学分野；桑原 徹、陶野郁雄

幹事：坂上寛一（幹事長）、斉藤享治（庶務）、

杉山雄一（会計）、岡田篤正（編集）、吉

川周作（編集）、小池裕子（会報）、山崎

晴雄（行事）、辻 誠一郎（企画）

編集委員：岡田篤正、吉川周作（以上幹事）、

河村善也、熊井久雄、斉藤万之助、相馬秀

広、塚越 実、那須孝悌、成瀬敏郎、兵頭

正幸、松浦秀治、松下まり子（以上委員）、

綿引裕子（書記）

会報委員：小池裕子（幹事）、鹿島 薫（委員）

#### 資料（2）貸借対照表

（1995年7月31日現在）

資料（4）日本第四紀学会1994年度業務委託費

（1994年8月1日～1995年7月31日）

資料（5）日本第四紀学会1995年度業務委託費

見積り

（1995年8月1日～1996年7月31日）

資料（2）貸借対照表

#### 貸借対照表

（1995年7月31日現在）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産		流動負債	
預 け 金	604,648	未払費用	1,989,540
小口現金	163,441	前受会費	9,227,000
普通預金	43,479	積立金	5,650,000
定期預金	5,650,000	小 計	16,866,540
金銭信託	12,210,000	前期繰越金	2,745,088
貸付信託	2,000,000	当年度剰余金	1,059,940
		(次期繰越金)計	3,805,028
合 計	20,671,568	合 計	20,671,568

#### 財産目録

資 産 の 部		
科 目	摘 要	金 額
預 け 金	(計) 日本学会事務センター	604,648
小口現金	編集 162,461 会計 980	163,441
普通預金	三井信託/上野	43,479
定期預金	-	5,650,000
金銭信託	-	12,210,000
貸付信託	-	2,000,000
合 計		20,671,568

負 債 の 部		
科 目	摘 要	金 額
未払費用	会誌34-2 印刷代175,590 発送郵税113,950 名簿作成費 1,100,000	1,989,540
前受会費	1995年度会費	9,227,000
積立金	特別事業積立 1,700,000 INQUA積立 700,000 予備費積立 3,250,000	5,650,000
合 計		16,866,540

資料(3) 1995年度予算案

収入の部 (1995年8月1日~1996年7月31日)

科目	1995年予算案	1994年決算額	1994年予算案	備考
会費	13,133,600	13,876,800	13,440,400	$7,000円 \times 1709名 \times 95\%$ $+5,000円 \times 103名 \times 95\%$ $10,000円 \times 101口 \times 95\%$ $20,000円 \times 16口$  文部省科研費助成金 広告等  40周年記念刊行物
正会員	11,854,100	12,525,800	12,171,400	
団体会員	959,500	1,031,000	969,000	
賛助会員	320,000	320,000	300,000	
誌補助金収入	1,500,000	1,563,563	1,500,000	
雑収入	0	660,000	660,000	
利子収入	1,000,000	1,512,216	800,000	
役員選挙積立金取崩	200,000	192,896	250,000	
名簿積立金取崩	0	400,000	400,000	
特別事業積立金取崩	0	1,000,000	1,000,000	
INQUA積立金取崩	1,200,000	300,000	300,000	
INQUA積立金取崩	0	100,000	100,000	
収入合計	17,033,600	19,605,475	18,450,400	
前期繰越金	3,805,028	2,745,088	2,745,088	
合計	20,838,628	22,350,563	21,195,488	

支出の部

科目	1995年予算案	1994年決算額	1994年予算案	備考
会誌発行費	7,250,000	7,177,709	7,400,000	第四紀研究5冊
印刷費	5,400,000	5,345,906	5,700,000	
編集費	1,700,000	1,713,466	1,500,000	
別刷印刷費	150,000	118,337	200,000	
会誌発送費	700,000	686,805	700,000	第四紀通信6通
会報発送費	650,000	660,436	500,000	
会報送費	900,000	980,380	500,000	
大会運営準備費	400,000	400,000	400,000	1996用
巡検準備金	100,000	100,000	100,000	1996用
特別講演会費	300,000	315,264	250,000	
予稿集印刷費	400,000	412,000	450,000	
学会賞費	200,000	51,237	0	
第四紀学会講習会費	100,000	107,940	100,000	
通信費	450,000	423,242	500,000	
会議費	50,000	15,300	50,000	
旅費・交通費	200,000	194,080	300,000	
印刷費	100,000	98,127	150,000	
業務委託費	3,800,000	3,811,139	3,700,000	資料(5)参照
40周年記念特別刊行物企画編集費	1,200,000	82,440	200,000	
INQUA対策費	0	101,140	100,000	
役員選挙費	0	535,884	400,000	
名簿作成費	0	1,100,000	1,100,000	
名簿発送費	600,000	0	600,000	
特別事業積立金	0	500,000	500,000	
INQUA対策積立金	100,000	200,000	200,000	
役員選挙費積立金	200,000	200,000	200,000	
予備費積立金	0	0	0	
名簿作成積立金	400,000	0	0	
研究委員会助成金	200,000	200,000	200,000	40,000円×5件
雑費	100,000	192,412	100,000	
予備	0	0	100,000	
支出合計	18,400,000	18,545,535	18,800,000	
次期繰越金	2,438,628	3,805,028	2,395,488	
合計	20,838,628	22,350,563	21,195,488	

## ■ 評議員会議事録 (1995年度第一回)

日時：1995年8月25日 (金) 17:30~19:45

場所：新潟大学理学部大会議室

議長：那須孝悌

出席者：鎮西清高 (会長), 米倉伸之 (副会長), 赤羽貞幸, 遠藤邦彦, 太田陽子, 岡田篤正, 小野 昭, 織笠 昭, 加藤芳朗, 菊地隆男, 小池裕子, 齊藤享治, 酒井潤一, 坂上寛一, 末永和幸, 杉山雄一, 立石雅昭, 辻 誠一郎, 陶野郁雄, 那須孝悌, 松島義章, 山崎晴雄, 吉川周作 (以上評議員), 松井 健, 吉川虎雄 (以上会長経験者), 上杉 陽, 吉越正勝 (以上オブザーバー); 委任状11通。

### I. 報告事項

総会議事録(1995年度)にある報告事項の報告があった。

### II. 審議事項

総会議事録にある審議事項が承認された。なお、30周年記念で提案された企画で完了していないものについて、今後どうするのか方針を明確にして欲しいとの要望があり、幹事会が検討することとなった。また、「第四紀研究」に対する科研費(刊行助成金)のゼロ査定について、復活のための取り組みをしっかりとともに、会誌を定期的に刊行できるように、会員一人ひとりの自覚を促すべきとの意見がだされた。「日本第四紀学会論文賞選考に関する内規」の一部修正として、「選考委員長は会長に選考経過と受賞者を報告する。受賞者への通知は会長が行う。」項の追加の提案がなされたが、このことは当然で、あえて項を追加するまでもないとの意見が出され、審議の結果、内規の修正をしないこととした。

### III. そのほか

土木学会火山工学研究小委員会から、企画充実等のために、第四紀学会から1人推薦して欲しいとの提案があり、上杉 陽会員を推薦することとした。

### IV. 学会論文賞の報告

吉川虎雄委員長(論文賞受賞候補者選考委員会)から、選考経過と結果の報告があった。

## ■ 幹事会議事録 (1995年度第一回)

日時：1995年8月25日 (金) 15:00~17:15

場所：新潟大学理学部大会議室

出席者：鎮西清高 (会長), 米倉伸之 (副会長), 坂上寛一, 岡田篤正, 小池裕子, 杉山雄一, 辻誠一郎, 山崎晴雄, 吉川周作, 齊藤享治 (以上幹事), 上杉 陽, 那須孝悌 (以上オブザーバー)

### 1. 1995年度評議員会・総会

1995年度評議員会・総会資料に基づき、評議員会・総会の打ち合わせをした。

### 2. 庶務

(1) 「第四紀通信」のISSN割り当ての手続きを行った。

(2) 土木学会火山工学研究小委員会の火山工学フォーラム「火山とつきあう」の協賛学会となることを承諾した。

### 3. 編集

1995年度大会のシンポジウム「平野の自然と人類史」と講演会「第四紀学と地震防災」を合わせて特集号とすることとした。

資料(4) 日本第四紀学会1994年度業務委託費  
(1994年8月1日~1995年7月31日)

I 会員業務費用	2,912,135
1. 会員管理費	180,000
2. 会費請求・学会誌等送付費用(11回)	2,288,820 (2062件X1,110円)
3. 新入会員登録手数料	46,200 (66件X700円)
4. 住所等変更手数料	97,800 (163件X600円)
5. 特別請求書発行手数料	156,600 (98件X1,200円)
	(39件X1,000円)
6. 追加発送手数料	51,800 (518件X100円)
7. 多部発送手数料	915 (3件X305円)
8. 学会誌保管費用	90,000 (18,000円X5段)
II 受付業務費用	320,000
III 会計業務費用	468,000
消費税 3%	111,004
合 計	3,811,139

資料(5) 日本第四紀学会1995年度業務委託費見積り  
(1995年8月1日~1996年7月31日)

I 会員業務費用	2,937,515
1. 会員管理費	180,000
2. 会費請求・学会誌等送付費用(11回)	2,331,000 (2100件X1,110円)
3. 新入会員登録手数料	49,000 (70件X700円)
4. 住所等変更手数料	96,000 (160件X600円)
5. 特別請求書発行手数料	156,600 (98件X1,200円)
	(39件X1,000円)
6. 追加発送手数料	52,000 (520件X100円)
7. 多部発送手数料	915 (3件X305円)
8. 学会誌保管費用	72,000 (18,000円X4段)
II 受付業務費用	320,000
III 会計業務費用	468,000
消費税 3%	111,765
合 計	3,837,280